



平成12年10月25日「本州最北端の地」にて  
(青森県大間町 大門崎)

今年の4月から当社仙台支店で支店長をさせていただいております。よろしくお願ひ致します。まずは、自己紹介ですが、新潟県長岡市出身、1952年1月生まれ、辰年の年男です。そのせいか、今年には波瀾万丈ですすんでいます。今年のいままでの出来事を羅列すると、入社以来20数年にして初めての転勤、他人事と思っていた単身赴任生活、技術屋でいたいと思っていたが営業職への転換、長男の大学進学による家族の離散、兄の突然の死、建設省北陸地方建設局長からの優良業務局長表彰の受賞。残り少ない今年ですが、これから何が起きるやら、ドキドキ、ワクワクで年の瀬を迎えています。

1975年3月に日本大学を卒業しました。当時は、ちょうど第二次オイルショックによる景気低迷が始まった時期です。1年先輩達のオイルショック前の就職状況を見ていましたが、求人数は大幅に減少し、大手企業の求人は数えるほどで、地方企業の求人が大幅に増加していたことを覚えています。私も1年先輩の就職先を訪問するなど、それなりの就職活動をし、某大手建設会社を志望しましたがあえなく拒否されました。その後、親の勧めもふるさとの県内企業にも興味が湧かず、いずれどうにかなるだろうという楽天的な気持ちで、卒業論文

## 私の履歴書

— 思いつくままに —

株式会社キタック 仙台支店  
川口 広司

の指導教授の研究室で助手見習いとしてお世話になることに決めました。

指導教授は、構造工学を専門とし、橋梁を主に力学を中心とした研究をしており、学科内でも屈指の「かたい」助教授です。当時、研究室では、模型実験や材料試験、及び当時普及し始めた電子計算機での力学の数値計算を使うテーマが主流でした。また、現場に出ることが好きで、関門橋見学、本四連絡橋の現場事務所への実務の勉強（これには助教授も参加した。）、また、当時建設中の東京湾岸道路の橋梁や沈埋トンネルの工事などの現場見学も多くこなし、「仕事で悩んだら現場で考えろ。」という指導教授の教えが研究室に浸透していました。

春休みに指導教授と次年度のテーマ探しを兼ねて、九州から沖縄にかけて分布が多い「石造りアーチ橋」の現地調査をしたこともあります。福岡から長崎、熊本、鹿児島、沖縄にかけて10日間の二人旅をし、石で積み上げられた橋や城のアーチ曲線の美しさに惹かれ、夢中で写真を撮ってきた感触をよく覚えています。この当時、沖縄で買った腕時計は、今でも私の腕で時を刻んでいます。

その後、我が助教授は、バンコクのアジア工科大学の教授として3年間の赴任を引き受け、それを機に私も研究室を退職することになりました。

研究室の手伝いをしながら自分で得たものは、いろいろな現場を見せていただいたこと、学生時代から行っていた模型実験とFEM解析手法の検討を進めるための数値解析の知識を整理させていただいたことです。FEM解析においては、面要素と線要素の接合方法を検討し構造解析に利用することがテーマでした。

